



「カラフト犬」ってどんな犬？

カラフト犬は、樺太および千島列島で品種改良により生まれた犬です。古くから北海道では使役犬（人間のために働く犬で、「職業犬」とも呼ばれる）として働き、1910～1920年の白瀬巖の南極探検にも、犬ぞり用の犬として使用されました。しかし、1970年頃にはほとんど姿が見られなくなりました。

カラフト犬の特徴

- 生まれつき寒さに強い。
- マイナス40℃でも平気！
- 力が強く、そり犬として最適。
- 毛の色は、白、黒、茶色、ブチなど様々。
- 短毛、長毛どちらも。
- 2週間くらい食べなくても大丈夫。
- 体重は30～40kg前後。



- 人間には従順。
- 犬同士でケンカすると手がつけられない。

- 寿命は短め。
7歳で老犬。

カラフト犬を南極に連れて行こうと決めたのは、第1次隊の西堀榮三郎副隊長兼越冬隊長でした。1956年1月、北海道大学の犬飼哲夫教授らと協議して、カラフト犬による犬ぞりの研究を行うことになりました。北海道内のカラフト犬の調査を行った結果、その頃は約1,000頭存在していることがわかりましたが、他の犬と混血しているものも多く、比較的良好な血統は100頭ほどだけでした。



【カラフト犬の体重測定】
大きな犬はこうにつるして測りました。



【犬ぞりの様子】
犬の毛色が様々なのがわかります。

モクとモク？シロとシロ？？クマとクマとクマ？？？

第1次隊が連れて行ったカラフト犬の名前を見ると、同じ名前が多いことに気がつきます。今でこそペットの名前は千差万別ですが、昔は、猫と言えは「タマ」、犬と言えは「ポチ」というように、同じ名前をつけることが多かったのです。

カラフト犬は、熊のように黒い姿をしていれば「クマ」、毛がもくもくしているから「モク」、白い犬だから「シロ」、とそれぞれの飼い主が名づけたのでしょう。同じ名前だとわかりにくい！ということで、観測隊員たちは、クマやモクには出身地（飼い主の居住地）を名づけることにしました。シロは、メスの方に「子」を付けて「シロ子」と呼んだり、「オスシロ」「メスシロ」と呼んだそうです。ただ、色々な資料を調べると、そのまま「クマ」「モク」「シロ」とだけ記してあるものもあり、一体どの犬のことなのかわからなかったものもあります…。

